

小鹿野町役場新庁舎備品購入事業（その1）  
公募型プロポーザル審査結果報告書

令和4年8月

小鹿野町役場新庁舎備品購入事業（その1）  
プロポーザル審査委員会

### 1 本プロポーザルの実施目的

小鹿野町役場新庁舎建設に伴う備品の購入及び設置にあたり「町民を中心とした多くの人を使いやすく、木のぬくもりを感じられる空間として地元産材木材を使った新庁舎の備品」「低価格かつ品質の確保」を実現できる最適な備品の提案を求めることを目的に、最も適当と判断される者を選定するため、公募型プロポーザルを実施した。

### 2 本プロポーザルのスケジュール

項目	実施期間又は期日
公募型プロポーザルの手続き開始の公告	令和4年6月24日（金）
質問の受付期限	令和4年7月6日（水）正午
質問に対する回答	令和4年7月11日（月）午後5時
参加表明書等の提出期限	令和4年7月13日（水）午後5時
参加資格要件確認結果通知	令和4年7月14日（木）
備品提案書提出期限	令和4年8月3日（水）午後5時
提案書類審査結果通知（第一次審査）	令和4年8月10日（水）
プレゼンテーション及びヒアリング審査	令和4年8月19日（金）
審査結果通知	令和4年8月下旬
仮契約締結	令和4年8月下旬
納入期限	令和5年2月28日（火）

### 3 審査経過

- 令和4年7月 5日 第1回審査委員会（審査基準等の検討）
- 令和4年7月19日 第2回審査委員会（審査基準等の検討、決定）
- 令和4年8月 4日 第一次審査の実施（事務局で審査）
- 令和4年8月 8日 第3回審査委員会（第一次審査通過者の決定）
- 令和4年8月19日 第4回審査委員会（プレゼンテーション・ヒアリング及び第二次審査の実施）

### 4 審査結果

備品提案書の提出のあった3者について、令和4年8月4日に事務局において提案書類審査を行い、令和4年8月8日開催の第3回審査委員会において第一次審査通過者として3者を選定しました。

第一次審査を通過した3者から提出された備品提案書について、令和4年8月19日にプレゼンテーション及びヒアリングを実施し、慎重かつ厳正に第二次審査を行いました。

その結果、次のとおり、受注候補者及び次点者を選定しました。

参加者	第一次審査評価点	第二次審査評価点	合計評価点	順位
A社	17	91.2	108.2	1
B社	20	64.3	84.3	2
C社	22	48.4	70.4	3

受注候補者 A社  
次点者 B社

## 5 審査委員会の構成

区分	氏名	役職等	備考
委員長	持田 孝史	小鹿野町副町長	第1号委員
委員	茂木 寅二	小鹿野町会計管理者	第2号委員
副委員長	新井 昇	小鹿野町総務課長	第3号委員
委員	磯田 定志	小鹿野町総合政策課長	第4号委員
委員	島崎 健司	小鹿野町住民生活課長	第5号委員
委員	黒沢 彰	小鹿野町建設課長	第6号委員
委員	常木 祥一	小鹿野町技監	第7号委員
委員	新井 徳英	小鹿野町議会事務局長	第8号委員
委員	加藤 恭浩	小鹿野町まちづくり推進室長	第9号委員
委員	栢本 洋平	有限会社香山建築研究所	第10号委員

## 6 審査講評

第一次審査では、参加申込書の提出のあった3者について、書類審査として過去5年間の事業実績及び小鹿野産木材の使用状況について審査し、実施要領に基づき、第一次審査通過者として3者を選定しました。

第二次審査では、3者から提出された提案課題に対する備品提案書について、プレゼンテーション及びヒアリングを実施するとともに備品見積書について審査しました。

提案課題については、提案内容の的確性、独創性及び実現性の観点から評価を行い、備品見積書の評価を加えて評価を行いました。

各者とも高い取組意欲を持って提案して頂き、提案コンセプトに基づき質の高い精査された提案内容でした。

特に地元産材を使用した備品の提案などでは、各提案者ともに独自のノウハウを活かし、豊富な実績に基づく提案内容で各者とも優れた提案でありました。

受注候補者として特定されたA者の提案は、本プロポーザル実施要領冒頭に記載した目的を熟知し、明確な備品提案並びに価格の提案をしていることから総合的にも高い評価を得ました。

特に、積極性については、受注後においてデザインの変更など、町の意向を柔軟にとりいれながら進めていくという姿勢が評価されました。

次点者であるB者については、地元産材を使うとともにフレキシブルな利用ができるカウンターの提案が高く評価され、当町のイメージやそれに基づいた備

品や配色などの提案もありましたが、庁舎のイメージに対して重厚感があるなどの指摘や、細部仕上げについて配慮に欠ける部分が不安要素として残りました。

C者の提案については、斬新な提案であるとともにそれぞれの備品に安定感のある提案内容でありましたが、今回町で求めるコンセプトに合致していない部分があるとの指摘がありました。

それぞれの強みを活かした素晴らしい提案、プレゼンテーション・ヒアリングでは各者ともにサンプル品を持参していただくなど、審査委員会でも優劣付けがたい内容でありました。